

WG 2 報告 骨子案 (目次)

1. 経済統計整備の考え方
2. 一次統計と国民経済計算との連携強化等による統計の体系的整備
 - (1) QE の精度向上に向けた方策
 - 推計方法の改善
 - 基礎統計の整備
 - (2) 年次推計の改善・体系的整備
 - 産業連関表との関わり (基準年次推計の諸問題)
 - 三面アプローチによる接近、コモ法の改善など (中間年次推計の諸問題)
 - 財政統計との関わり (注)
 - ストック統計との関わり (注)
 - 93SNA-Rev.1 など国際標準との整合性確保

(注) SNA 整備の枠内ではなく、下記 3. で例えば「国の基盤の実情を明らかにする統計情報の把握」といった視点・課題の構成項目とすることもあり得る。
3. 重点的な整備
 - (1) ビジネス・レジスターの構築と企業統計の体系的整備
 - 正確な母集団名簿情報の整備
 - 行政情報の活用とビジネスレジスターの構築
 - 企業の組織活動を捉える統計の作成
 - 企業グローバル化と企業グループの実態を捉える統計
 - (2) ユーザーの視点に立った、分散型統計を超えた取組
 - 全産業横断的な企業活動に係る統計の構築
 - モノの生産活動に係る統計の共通化
 - (3) 経済社会の変化や科学技術の進展に対応した統計の整備
 - 労働市場の変容を捉える統計の整備
 - より有用な情報通信業統計の作成
 - 知的財産活動の全容を捉える統計情報の作成
 - (4) サービス活動を捉える統計の整備・充実
 - サービス活動を適切に捉えるための検討
 - 企業のサービス活動を捉える統計の作成
 - (5) 重要性を増す新たな分野の統計整備
 - 観光統計情報の総合的把握

- 環境統計の段階的な整備

4 . 既存統計の見直し

- (1) 基幹統計とすべき統計
- (2) 今後、基幹統計とすることについて検討すべき統計